京交山岳部報

No. 392　　'85　6月号

〔第１５３９回例会〕 **六甲の谷**

西　山　谷　(T)

日　　時　6月9日（日）　阪急河原町駅　8時集合

コ　ー　ス　河原町ー十三ー御影…西谷橋…寒天橋…西山谷

担 当 者　本局　鷲見敏一（TEL 854）

備　　考　弁当、ワラジ、ヘルメット、カラビナ、シュリンゲ、着替え一式等持参の事。

〔第１５４０回例会〕 **府県境の山シリーズ（60ー3）**

江笠山△727.8m　(R)

日　　時　6月16日（日）　壬生交通局前　7時出発

コ　ー　ス　京都ー福知山ー下天津ー雲原ー仏谷…江笠山

担 当 者　津田　実、岡田茂久（TEL 255ー4305）

備　　考　マイカーで行きますので担当者まで申込むこと。

〔第１５４１回例会〕 **古代太陽の道**

大洞山と尼ヶ岳　(R)

日　　時　6月23日（日）　みぶ交通局　7時集合

（北緯36°　6／21 夏至になるので）

コ　ー　ス　京都ー木津ー上野ー名張ー上太郎生…大洞山…下太郎生…尼ヶ岳

担 当 者　高速　岡田茂久（TEL 255ー4305）

備　　考　6月21日夏至になるので太陽が真上に来る時に大洞山に登りたいと思います。

〔第１５４２回例会〕 **ザイル祭**

比良　シシ岩　(T)

日　　時　6月30日（日）　京都駅　湖西線　7時04分発乗車、北小松駅下車。

担 当 者　烏丸　大倉寛治郎（TEL 491ー0430）

例会予告

高　賀　山　（T）

日　　時　7月7日（日）　みぶ6日（土）　午後3時出発

コ　ー　ス　みぶ－京都東－羽島ＩＣ－長良川の堤防－長良橋－洞戸村…高賀山

担 当 者　本局　大槻雅弘（ＴＥＬ　722）

備　　考　各自シュラフ、食料持参のこと。マイカーで行きます。

夏山登山大会

八　ヶ　岳　（T）

日　　時　8月9日（金）～11日（日）　9日 夕方発予定

コ　ー　ス　京都－諏訪－茅野－麦草峠…硫黄岳…オーレン小屋（幕営）

…横岳…赤岳…美濃戸－中央高速－京都

備　　考　マイクロバスで行く予定です。

今月の集会

6月10日（月）　岳連ルーム

企画運営リーダー会

6月20日（木）　広瀬光担当

ねんざ

岡　田　茂　久

平均年令４７才、ヤングに負けるものかと張りきってでかけた厳冬期の３０００m、それでもやっぱり失敗をやらかした。

風雪とガスに悩まされはしたが無事登頂に成功。ベースに戻り撤収完了、スキーよりシールを取りはずし、さあ下山、借物である某君自慢の兼用靴をジルブレッタに装着、ザックをよっこらしょと担ぎ揚げたとたんその重量に振られて見事に転倒した。根がいい格好し、パーティの面々は準備に夢中で気がついていない。これ幸いとばかり急いで起きあがろうとしたが片方のテールが雪面に突ささり動きがとれないではないか、ジルブレッタの性能はその時頭に浮かばなかった。えいと横に捻じったとたん、グキッと嫌な音が膝でした。しまった！　顔から血の気が引くのがわかる。えらいことをした。

急いでザックをほうりだし締具を外すと恐る恐る立上ってみた。ややこわばった感じはするが、痛

みはあまりない、ふんばりも効く。よかった！　体から力がすーっと抜けていくのがわかった。その後の下山は３０Kg近いザックの重量もかえって体重移動がよく効くような最高の雪質に助けられてご機嫌で山麓の駐車場に滑り込んだ。国道の車の停滞にいらいらしながらもシートに体を沈め気が緩むにつれて、膝が硬直し痛みだし腫れてきた。

翌日はどうしても出勤しなければならない用務が発生し、医者行きは夜になってしまった。レントゲン検査の結果は〝膝関節靱帯損傷〟ようするにネンザである。たいしたことはないようであったが、それでも医師は「こんどからはもっと早くみせてください。膝は大事ですからね」　なんかこれからも何度もやるようなことをいう。おまけに横から看護婦も「もっと早くきてください。」判りましたよと思ったが、「いやーっ　あまり痛まなかったもんですから。」　彼女いわく「うちは診療受付は8時までです！」すんまへん。しかしおかげで他の患者もなく医師も予定がなかったのか色々と親切に教えて頂いた。

関節には骨と骨を繋ぎ止めガタつかないようにするため周囲に靱帯というスジがある。普通内側と外側に一本づつの副靱帯と、中心部で交叉している前十字靱帯と後十字靱帯の四本があり、関節を廻すなどの異常な力が関節にかかり、靱帯が伸びきって元に戻らなくなったのがネンザ（捻挫）であり、それには靱帯が伸ばされただけの軽いものから、靱帯の一部が切れたり大部分が切断されたものや、靱帯のくっついている骨の一部が剥がれる（剥離骨折）ような重症のものまでいろいろである。脱臼というのは関節に外力が加わり、連結している骨が外れたもので、必ず捻挫を伴うものであるらしい。

ネンザは普通、内に捻ったときは外側、外に捻ったときは内側の靱帯を傷めやすく、靱帯が切れるような重症では必ず内部で出血し激痛と腫れがひどく歩けなくなる。切断していれば手術をして切れた部分を縫合しなければならない。なかには歩ける人もあるがそれは受傷のショックで周囲の筋肉が硬直しているためである。一般に常識ではネンザをした場合湿布をして患部を動かさないように注意しているが、その為痛みはなくなったが靱帯が切断しているのを気付かず放置することもあったようである。しかし切断した靱帯は受傷後の１～２週間の急性期を過ぎると靱帯の切端しがなくなり縫合できなくなる。そうなるとテフロンで作った人工靱帯や他人の靱帯を移植するなどしなければならないが問題点が多いと恐ろしいことを聞かされた。

ネンザは山やスキーではよくやる怪我である。したがって我々はついネンザぐらいと軽く考え、治療をなおざりにし受診を怠りがちであるが、あんがい治り難く後遺症も残すものである。はじめにしっかり治療をしておくことである。それにもまして事故を未然に防ぐのが大切で、転石や雪質に注意するとともに、行動の事前に充分の準備体操、特に身体の筋肉を限界まで引伸してやるストレッチ体操をしておくことで大部分のネンザは防ぐことができる。

お互いに注意し、ご安全登山を目指したい。

第１５３１回例会

府県境シリーズ（６０—１）

法　沢　山（643.5m）

大　木　秀　実

４月７日（日）　ＡＭ６：３０　天気予報によると、京都府は北部南部とも降水確率１００％　とのこと、雨を覚悟で家を出る。

総会で本年度より京都府県境シリーズが始まる事を知り、できるだけ参加しようと２０万分の１の地図で県境を辿り楽しみにしていたのだが、（津田さんの５０山には遠く及ばないが、このシリーズにできるだけ参加して今年は１２山は登りたいものだ。）シリーズ第１回目の法沢山が雨の中での山行では参加者も多分少なく残念だなあと思いつつ壬生につく。7時になると１９名もの参加者があることを知り、さすが京交山岳部と感心、いまにも雨が降り出しそうな空模様の中を５台の車に分乗して出発、（途中より小雨となるが、すぐに止む）　帰りに立ち寄る予定の出石をすぎ奥小野から林道に入り車を置き、「法沢山登山口」と書かれた立派な道標より登山道に入る。２００m毎に道標が設置されていて、よく整備されている道である。最後の２００mはかなりきつい直登で法沢山の頂上に出る。

頂上は広く視界は３６０°、雨を覚悟で来たものの、晴天とはいかないまでも、時おり日ざしが差し込む気持のいい曇天である。

昼食後車の所まで下山し予定の出石で皿そばを食べ（みやげのそばも買い）、出石城跡まで腹ごなしに散策し帰途につく。途中の喫茶店で、今後の県境シリーズについて話し合い、次回は法沢山の隣の高竜寺山と決定。シリーズ全山できれば参加したいと思いつつ帰京、京都は雨だった。（昼ごろから雨だったとのことである。今回の参加者には、雨男雨女はいない様である。）

〔参加者〕　吉田　武Ｆ４、鷲見敏一Ｆ１、岡田茂久、津田実、三橋勉、山口雅直、方山宗子
和田良一、奥村弘信、荒田又之助、近藤薫、横井襄二、坂井久光、大木秀実
以上　１９名

〔コースタイム〕　みぶ 7:15 —登山口 10:20 ～ 10:30 …林道峠（尾根取付）10:44 ～ 10:48 …△法沢山 11:35 ～ 12:30 …取付点 13:10 …車止 13:25 ～ 13:36 …出石（永楽）13:55 ～ 14:45 …城跡 15:05 ～ 15:36 —福知山（アルプス喫茶）17:25 —みぶ 19:30

第１５３３回例会

太　神　山

横　井　襄　二

石山駅を８時４５分発のバスに乗車、昔の田舎が未だ残っているような新免で下車。このコースよりの田上山登山は枝より入る銀座コースと違ってほとんど人も入らないのでのんびりとしている。ダムまでの道は案外と広く天気もよく気持よく歩ける。山つゝじ満開には少し早いようだが、一部濃いピンクの花をのぞかせている。道の左側に古墳があり数個の中位の石を積んだ質素なものである。附近の地形からみてどのような生活をしていたのか、農耕より狩猟が主だったかも。何の位が何時ごろと、種々想像しながら、又しゃべりながらピッチを上げるダムは巾が２０ｍ、高さが１０ｍ位で完全な砂防ダムである。ダムの右側を登るが一気に４５°位の岩の風化した所を登るほんの少しだったが、汗が一度に吹きでる。３０年程以前に此のダムの一角で蚊張の中から月をみてキャンプをした事があるので昔の記憶を今の場所に重ねてみると、河原の砂、山の形、背の低い木立等が思い出される。上からダムをみると砂が大部埋っているので砂防の効果の程はと、人ごとながら心配だ。

ダムを後にして川に沿って上って行くが、先日来の雨で増水しているので川沿いの道まで水が来ている。石の上を跳んだり川の中を歩いたりで靴からの浸水の激しいかっちゃんも最後はやけくそ、川巾は大体２ｍ～３ｍで水深は１０㎝～３０㎝位であるが、川を縫うように右岸へ行ったり左岸へ行ったり、又小さい滝もあり岩に砕ける水しぶきをあびて登り、滝の高い場合は山側に廻り、藪こぎ結構変化があって面白いコースだ。まむしの出る時期には、もう一つスリルが味わえそうな場所でもある。１１時過ぎに谷がＹ字形になったところに出る。右に赤い布の目印があるが、奥村さんの指示により川沿いに左への道をとる。結果的には正解。川巾が多少せまくなり右に左にとコースを変えながら進む。２５０００分の１の地図でもこのあたりの尾根・沢は低く又浅いので相当の熟練者でも地図を読み取るのはむつかしいようだ。さすがの奥村さんも、ウムー。

１２時３０分、川原の広い場所に出たので昼食とする。山全体が案外低いので太陽が一杯に輝き実に気分そう快である。ビールの味も格別のものがある。津田さん、そんなにのんでよいのかしら…？　田上山附近は花崗岩の風化した山が多いので荒い砂がいたる所出来るようだ。水と砂と緑とがうまく溶け合っていて心も落着き都会のけん騒も一時忘れさせてくれる。充分休憩の後出発する。楽しませてくれた川と別れて左の山に入るが、道は無く地図にある尾根道を目指して登る途中植林がしてある場所を何カ所か通る。２０数年過ぎたはげ山も、今では樹々も新芽を出し、しっかりと大地をつかんでいる松が多いようだ。ほどなくして尾根道にでる。急に展望が開け北西面に大津の街、琵琶湖がかすんでみえる。この道は一般のコースで午前に登ってきた川の中の道と違ってルンルン気分で歩ける。東、西と尾根筋より変る展望をみながら少さい起伏を越え、松やはげしばりの

植林の中を進む。こぶしの白い可れんな花が松の緑の間からあちこちに見られる。このあたりでやっとうぐいすの鳴き声をきく。太神山不動のあたりで樹木も多く飼も多いためだろうか。太神山不動の下より一気に登って１５時０５分三角点５８９．７mに着く。やぐらの上で休憩、樹木が高いのであまり見通しはきかないが測量中なので西の比良の蓬萊山、南の鷲峯山、東の三上山の方向には枝が払われていて遠望が出来る。やぐらの横の木に合図用の旗を上げるロープが木の上まで張ってある。無線や電波のある時代にと思うが、かえって時代がかって面白い。小さい社に参って１５時３０分三角点を下りる。少し下るととてもユーモラスな石像に出合う。勢至菩薩と書いてある顔の表情が福よかで体の線が柔らかい、今にも踊り出しそう。この菩薩を作った石土の優しさがにじみでてるようである。こゝからはずっと下りで、又うぐいすの声を聴きながら皆でにぎやかに下りる。樹木の多いところから急に田上特有のはげ山の多い場所にでる。植林が未だ進んでないのでかえって異様な風景で西部劇にでもでてきそうな所で、アパッチがでてきても不自然さは一向に感じない場所である。

一方真面目に考えれば風化した所が川を埋め、又川を流れ大同川から瀬田川に流れて川を埋めてしまうだろう。一日も早い沿山治水のための植林を急がなければと思った。よろいダムの下で最後の休憩で飲んだ紅茶も又美味、天候にも恵まれて変化のある楽しい山であった。

桜の咲く大同川に沿って下り運よく来たバスに飛び乗って菜の花の咲く田舎道と桜の満開の瀬田川の土手を借切りバスよろしく石山駅へと向った。

〔コースタイム〕　石山駅 8:45 ―新免 9:10 …ダム 9:45 …Ｙ字形の谷 11:20 …少し広い河原（昼食）12:30 …尾根道 13:30 …展望の良い場所西ノ方 14:10 …広い林道 14:40 …太神山不動三角点 15:08 …菩薩のある場所 15:40 …よろいダム下 16:35 …バス乗車 17:25 ―石山駅着 18:55

〔参加者〕　奥村、津田、村、和田、山元、原田、横井　　総員　７名

第１５３４回例会

加賀白山スキー登山

大　槻　雅　弘

昨年のゴールデンウイークに計画して行けなかった大笠山、笈ケ岳を今年も５月に例会に組んだ。ところが私の人事異動で４月の２８・２９日に、吉田、古市さんと３名で行ける所まで登ろうと日程を変更し、ベストコンデションに体調を調整していたのだが、吉田君が出発２日前に持病とでもいうべき腰痛を再発し、古市氏も急用で参加不能となった。

私としては、どうしても今年のメーンに考えていた山行であり、残念ではあったが大笠山はあきらめざるを得なかった。そこで急拠、白山なら登ると云う三橋さんと単独計画をしていた関本君、それに大槻貞従さんと４名の白山行となった。

私にとっては3回目の白山行だが、初回は夏山、2回目は4月の山、今回は頂上からスキーで滑るという計画になった。今年はスキーに行く機会が少なく頂上からのスキーに少々の不安はあったが、何はともあれ、一路白山を目指し4台のスキーを積んだカローラポルシェは快適に我々を別当出合へと運んでくれた。

スキーをザックのサイドに着けると15～16Kgの荷物になる。この快晴の空と雪を見ると妙なもので、家で担ぐより軽く感ぜられる。今日の行動予定は甚之助ヒュッテまでなので気ものんびりする。残雪にまだ踏みつけられている木々を抜け、柳谷川を右眼下に見ながら尾根を登り、別当谷から廻り込んでくる林道の終点の小屋に一汗かいた頃に登り着く。2・3のパーティーの人達が休憩していて初めて同類項の人達に出くわす。

この小屋から不動滝が東に真正面に望め、雪溶け水を落している。少し休憩後、ここからスキーを引張る者、担ぐ者、スキー登高する者と、自分の好きな得意なスタイルで登ることにし、スタートする。私は担ぐ方で先頭に歩いて30分ピッチで休憩する。結果は残雪の締った雪は歩く方が早いようで、急斜面には一直線で登高も出来るし、その点スキー登山は直登は無理だし、引張るのはトラバースでは無理だし、と言うことで結極担ぐのが一番得策だった。

甚之助谷と別当谷に狭まれた1975m地点の尾根に小屋は建っている。出発して2時間30分程でこの甚之助ヒュッテに着いた。赤いトタン屋根が少し顔を出している程度で、まだほとんど雪の中に小屋は埋っている。

今夜の宿を確保すべく荷物を小屋に広げてから小屋の外で昼食を摂る。後続の三橋、貞従さんは一ぶくしていたらしく45分遅れで小屋到着となる。食事後、のんびりと周囲の山々を眺めながら小屋の赤トタン屋根の上で昼寝をする。

雲一つない青空の下、気温は20°C以上あろうと思われ、トタンが熱くやけて上半身裸で寝る。一休みした後、明日の足ならしのために小屋の上方200m程登りスキーをする。下山者が尾根上方よりスイスイと滑ってくる。我々も負けじとばかり滑る。私は登山靴でのスキーだが、他の3人は今はやりのプラスチック兼用靴。なんとか登山靴で山スキーはこなしたいとヤセガマン。2回程滑るともう5時近くになったので小屋に引き上げて夕食とした。

一斉共同装備なしの個人まかせの夕食も個々の個性が出て、いろんなものが出来上り面白いものだ。人のエッセンの勉強にもなるし、次回はこれがいいとか、あれはやめたとかいろんな意見が出る。今はやりのカロリー充分の菓子でやろうと思っている人に、人間は中味より満服感が第一だとか言ってせっかく試そうとしている人にケチをつけたりで、楽しい食事もワイワイ言っているうちに終ってしまった。

夕焼空を見て、他のパーティーの人達と写真を撮ったり話している内に周囲も寒くなって来たので早々とシュラフにもぐり込んだ。

明けて29日、起床6時。小屋の窓を開けると真暗だった部屋が一べんに明るくなりまぶしい。ラジオのミュージックにのって朝のエッセンの用意にかかる。いつも思うのだがコンロの音はチントと言わず小屋と言わず、山屋には何んとも言えない響きで、その時々の感情を伝えてくれるよう

に思う。また、その青白い炎も同じことである。その炎で朝から貞従さんはビフテキを焼き、小屋中になんともいえぬ油の焼ける音と、においを充満させ、他のパーティをうらやましがらせる。そのビフテキをナイフならずハシで切り裂き一口いただく。楽しき朝食もかくて終りイザ頂上へ出発。

4月末といえどやはり高山は寒く、アイゼンが必要である。軽い食事と、防寒衣をザックに入れ小屋を後にする。ルートは南竜ケ馬場へ廻り込む東側のトラバースをとり、万才谷右下に見て尾根を弥陀ケ原へと進む。関本君と私は途中から直登ルートを登ったため、三橋、貞従さんと別れ先行して室堂に着いた。室堂の冬期小屋を風除けに一ぶくし、昨夜シュラフが無いという大阪の女性にシュラフカバーを貸してあげた御礼にとウイスキーをもらったのをチビリチビリとやりながら熱い紅茶が沸いて一口口に入れようとした時に、三橋、貞従組がタイミング良く到着。30分程軽食を摂り濃いウイスキー入り紅茶で体を温めて頂上へ向けて最後のガンバリをする。

頂上は三角点も顔を出し、一汗かいたノドに4人でビールで乾杯。コップに一杯づつのビールが心地よく腹に入っていく。三角点で記念写真を撮り、登頂の喜びの握手をする。重いスキーを担ぎ上げた苦労がいっぺんに吹飛ぶ。

頂上からは50mばかり岩が出ていてそこまでは滑れないのでトラバース気味に歩いて下りスキーを着ける。広い大雪原の弥陀ケ原までは5分もかからず各自、好きなスタイル、コースで滑る。なんとも言えぬ爽快な気分である。弥陀ケ原からは登りと違って頂上から真南のコースを下る。相当きつい斜度の所へ出て下が見えない程である。先行パーティーが写真を撮って休んでいる谷筋へ下ると、もう小屋まではすぐ目の前で、長い登りを思うとアッという間に小屋に着いた感じである。早速小屋に置いておいたシュラフ等をつめ込んで、車止の別当谷出合へ出発する。

林道終点の小屋までは登り同じコースで10分ばかりで下った。そこからは別当谷をまたぐ林道を滑って出合に下りた。頂上をスタートして2時間で下ったことになる。お互いに良く焼けた顔や肌を見ながら白山温泉で汗を流して、楽しかった山行を終えた。

〔コースタイム〕

4月28日　修学院5:00 ―敦賀IC 6:41 ―福井北IC 7:24 ―朝食 7:26 ～ 7:47 ―別当谷出合 9:15 ～ 9:45…甚之助ヒュッテ 12:15

4月29日　甚之助ヒュッテ 7:40…室堂 9:10 ～ 11:15…頂上 11:10 ～ 11:40…滑降 12:00…甚之助ヒュッテ 12:25 ～ 12:50…車止 14:00 ―京都 20:25

護摩堂山

△1,152.4m紀行

津田　実

4月21日、小松から谷峠目指しR157号を南下する。途中で北陸鉄道の踏切りを渡ったところ鉄路は赤錆ていた。白山へ登るときには必ず利用した電車だったが橋梁の老朽化が進み危険な為

休止されているとのことであった。ながく鉄路に務めた者として誠に感無量である。嗚呼、此処もレールはタイヤに変えられたか、滅びの美と云う言葉があるが此のように醜く亡びたくないものだ。鉄路も、人生も。

尾口村、中宮への道を左に送り白峰村に近づくにつれて手取川の開発が進み、立派なロック、フィルダムが完成したのに伴い道路も見違える程立派になった。これで此の土地の人達も金沢が近くなっただろう、嬉しい限りだ。なにしろ此の付近は地形的に北西の季節風が強く、一たび悪魔の襲来を受ければたちまち山も野も家も其の猛威に曝され、一夜にして雪原と化す。白峰村で6.82m（大正8年）の積雪が記録されている。「NHKブックス、雪国文化誌38Pに、土壌の凍土が30cmになれば降った雪が根雪となる」と記されている。更に「白山、立山の山麓では12月上旬に根雪となり、4月中旬から5月上旬にかけて消雪する。以上のように日本海側の積雪地域では、短いところで3カ月、長いところでは5カ月も雪に埋もれた生活を余儀なくされている」と書かれている。これは正に北越雪譜を地で行くようなもので、何カ月も雪と闘かわねばならない豪雪地帯に住む人々のご苦労を察するに余りある。雪を美化する小生の思想は根底から覆され、此の本を読んで目の鱗が取れる思いがした。　閑　話　休　題

谷峠のトンネルを福井県側に抜け右側の駐車場に車を止め、服装をととのえ旧道を登り出す。今日は絶好の晴天で山菜採りの人々が三々五々と登って行かれる。旧道を大きく左に曲り、右手の林道を進むと雪塊が出現した。三橋さんが先月来たとき国道に1mの雪があり、此の付近は一面の雪原でこんな広い道ではなかったとのこと。彼は頻りに感心していた。「此んなに早く雪が無くなるとは」と。途中で4・5才位のお嬢ちゃんを連れた若い登山者を追い抜く。今から山歩きを初めたら彼女も一流の登山家になるだろう、と思い乍ら歩いていると、功ちゃんが谷峠→ごまんど山と書いた導標を見つけて呉れた。地図上の谷峠である。

これを石川県側に下りると白峰を出られる。すると昔年の往還だったのだろうか。？　ごまんとう山への径は林道の左手尾根に付いていた。それからは大・小の雪渓が径を塞ぎ照りつける太陽の反射が眩しく少しつらかった。自然と歩速が落ちる。三橋さんと功ちゃんが先に行ってお湯を沸かしておくとピッチを上げて行かれた。我々は喘ぎ喘ぎ登って行く。夕餉のお呑物が今頃祟り出した。それでも天気は好いし、時間はあるし、目標の反射板も近い。云うならば白山前衛の山々漫歩？？と云うところ、振り返って見ると大日山と同じ位いの高さだ。

巨大な反射板の少し手前、登山径の左側に二等三角点の標石があった。1,152.4m、こんな近くで二等に拝顔出来るとは感激。そこで先づ山の神様にと、ザックを開けて驚愕大事な御神酒を仕入れ来るのを忘れてた。小生一生の不覚。今更悔んでも仕方なくコーヒーで我慢したが、我ながら情けない。

下山は、同じ径では面白くないと左下に林道が見えるのでそれを目指して雪原を歩く。雪の上をビニールを敷いて功ちゃんが滑り出した。それが案外危険もなく好く滑るので、とうとうお父さんもお母さんも真似て滑っていった。

谷峠の導標少し下に登りに気付かなかったが、登山径のあるのを土地の人に教示戴き、その径を

辿る。ところが樹林帯なので意外と残雪の多い径で、ところどころ消失し判りにくかったが雪中の踏跡と、頭上の赤いテープに導かれ、なんとか国道に出られた。すると登りに使った旧道の下手、200m位のところだった。

〔同行者〕　三橋夫妻、功ちゃん、奥村さん

〔コースタイム〕　登山開始 10:50…谷峠 11:28…山頂 12:25…下降 13:15…谷峠 13:54…国道 14:25

〔参　考〕　山頂より見る白山、大日山等、素晴しい眺望であった。
皆様　是非一度登って見られては如何が!!

お奨めコース　谷峠→護摩堂山→護摩堂峠→取立山→小原峠→国道157号線

東山三十六峰を歩く会

田　中　定　勝

主　催　ネーチュア・クラブは人間が自然の一員として生きていくことを目的としています。

日　時　3月31日　晴　午前9時

集合場所　銀閣寺京阪バス停前

講　師　逢　原　一　生

第一回は昨年12月23日、比叡山…北白川山　終る。

第二回は、コース　銀閣寺…如意ケ岳…椿ケ峰…大日山…粟田山…清閑寺山…五条坂行程11Kmを歩く。　参加人員　55名

銀閣寺バス停を午前9時10分出発する。一般には銀閣寺正門前を左に登るコースがよく知られている。登山口のお地蔵さんの前で講師の紹介と今日登る山を簡単に話された。

坂道を行くと山頂近くに「千人塚」の石碑がある。終戦直前に本土決戦準備のため兵隊が山腹ちかくで穴を堀っていたら遺骨の入った大きなツボがたくさん出てきたと話された。（城跡）
山上には弘法大師堂があり、全員今日の祈願をして「大」の字の火床の話聞く。第一画の長さ81m（四五間・一九床）　第二画、160m（八八間・二九床）　第三画、130m（六八間・二七床）と云われた。

如意ケ岳（大文字山）東山三十六峰、中の北端に位し東山の首峰である「講社根元記」によれば天照大神が天の岩戸から出られるや、その光がこの山にさしわたったので八百万神々は悦で給うて皆意（みなこゝろ）の如くなるようのたもうてより、如意山と名付けたといわれる。

大文字送り火は、精霊の送り火としてのみならず、また悪疫平癒、王城鎮護を祈願する宗教行事でもあるところから、古来これに付随していろいろな俗信が行われた。例えば丸い盆に水または酒

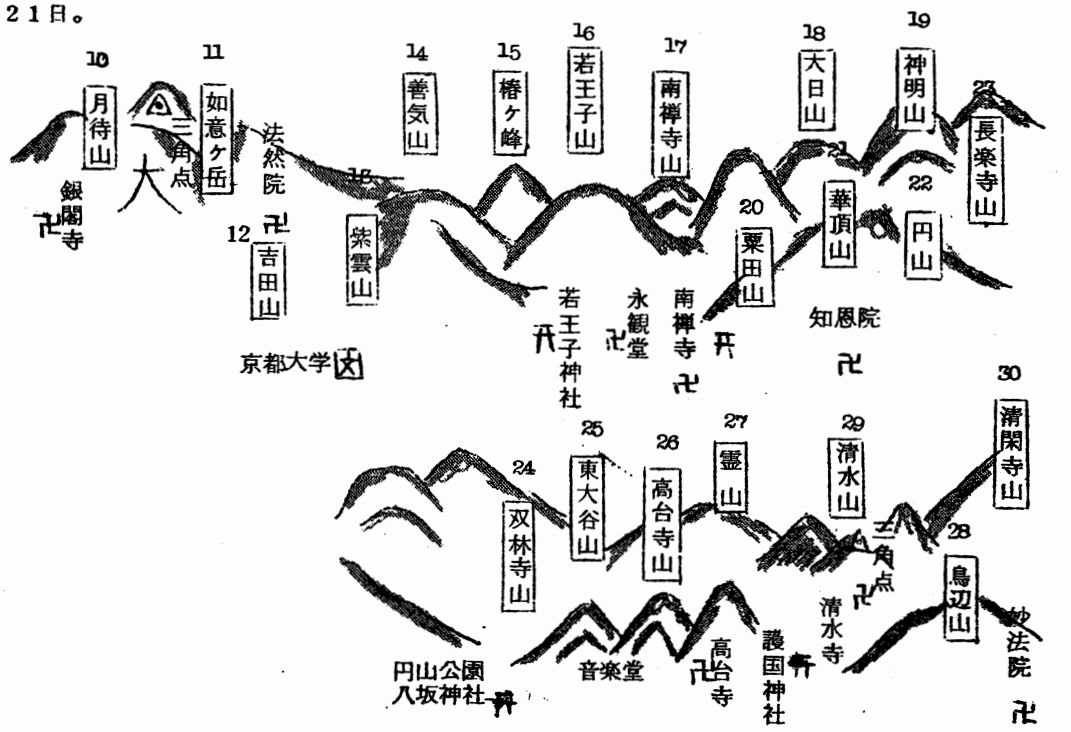
を入れてこれに送り火をうつして飲むと中風にかゝらないといわれ、また当日松割木（護摩木）に自分の自前と年令を書いて山上の火床の松割木とともに焚くと厄除けになるともいわれ、或はその消炭は疾病除け、盗難除けにきくと云われた。

三角点に向って此処で小休憩して南下する。大日山は粟田山の一支峰である。日向神社の背後の神明山の上壇にあって、古くは東岩倉山と称し山上に石造大日如来像を安置していた。この地は往昔京都の四方の山に大乗経をおさめて王城の鎮護とした岩倉（石蔵）のあったところと伝えるが、経塚の址は今あきらかにしない。日向神社に着き昼食とする。出発１２時１０分、インクライン日向橋を渡り三条通り蹴上より都ホテル前を通り粟田神社へ。

講師の話聞く、粟田神社を感神院新宮といった。境内には、神社にはめずらしい刀剣の絵馬が飾られている。この地は平安中期の刀匠三条小鍛治宗近が住んでいた所といい西隣の仏光寺本廟には「三条小鍛治宗近之古跡」の石碑が建てられていると話された。境内の南登山口入口には鉄の扉があり講師が宮司にお頼みして扉の鍵を開けて頂き、全員此処を通過して粟田山へ。粟田御所といわれる青蓮院の裏山を通り、華頂山一円山 将軍塚、講師の話聞く。

円山公園長楽寺東方八〇〇米余りの山頂にある。桓武天皇が平安京遷都の時、王城鎮護のために長さ二・四米の土偶をつくり、これに鉄の甲冑を着せ鉄の弓矢を持たせて西向にして埋めしめられたといわれ、それより天下に異変のあるときは鳴動してその前兆を示すと伝える塚は円墳からなり近年付近から石棺や鉄剣などを出土したことがある。

なお、傍の松樹は東郷元帥並に黒木大将の記念の手植になり、また大日堂は青蓮院に属し、山頂から発掘された大日如来石像を安置する。高台寺山…霊山…清水山…三角点…鳥辺山…清閑寺山…山麓、午后２時着。此処で皆元気で次回にお顔を見せましようと固い約束して別れた。次回は４月２１日。



幻の福寿草を求めて

（西山周辺）

坂　井　久　光

昭和３８年の５月号部報１２７に小生の一文片栗の咲く山が載っており、今から約２０年以上も昔のこと。田中忠久氏と二人で通った外畑の農家の庭に福寿草が生えており、「何処から手に入れたのか」とその家の主人に尋ねたところ、「ポンポン山の谷の奥で」との返事だった。以来京都府では丹後半島以外に福寿草の自生地は無いのが定説となっていたので、自生地発見にあの谷この谷と延何十回もポンポン山や西山の山や谷を歩き探し廻って来た。

今年になって暇が出来たので、晴天になると出掛けたりして北面や西面の谷は歩き尽した。それで５／９久しぶりで外畑へ老の坂から林道をつめ尾根筋を登り、送電線の鉄塔へ登り西山団地へ出て、大枝山の南のコルから西へ下り鵜川林道終点に出て本流沿いの山道を辿り、峠を越して外畑の郵便切手を扱う畑さんを尋ねた。すると７２才になられた畑さんが現われ、「家にある福寿草は息子（現在　高槻消防署勤務）がカマ谷の奥で採って来たもので、その後行ったが場所も忘れた程で道が茂り、一株も残っていないようだ」と話されたが、白髪だが元気そうで庭の手入れをしておられ、昔私が来たことは忘れてはっきり憶えていないと云われ、私も年をとったものだと思った。

今年になってカマ谷の右俣も左俣も、右俣の両俣とも頂上（出灰ーポンポン山の登路経由）迄谷をつめ、主な分谷も道のある谷は全部歩き、西山尾根（西山歩山会の標識がある）の登降路は登破したが、一本も見つからなかったので私も根がつきて畑さんに教え乞うた次第であった。昔人の奥の少なかったカマ谷や大山谷の奥でも空缶や空ボンベ等があり、又テープがつけてあったりしてひどい茨の藪も切開があり、その後私も切開いた所もあるが歩き易くなっていた。

又出灰の不動谷出合も、せゝらぎの里と名のる養鱒場釣池や食堂が建ち、都会の客を呼んでおり久しぶりで不動谷を遡行して右俣を登り、次の出合を右にとり地図の・５３２の約２００m程東（頂上へ）の出灰からの登路に出て、頂上から釈迦の手前の杉谷への近道を下り、杉谷から三鈷寺ー灰谷ー灰方と日暮の山道を下りバスで東向日に出て帰った。その前の日はカマ谷へオネンショウ越えの道から入り、右俣の右又をつめて登頂、出灰へ下山。下条から支尾根道を登り山頂へ１．３Km、本山寺へ１．５Kmの標識の立つ東海自然歩道に出て山頂経由、釈迦ー大沢ー大山崎と歩いて阪急で帰った。今年になって何回も登った南春日町から坂本ー逢坂峠の車道の金蔵寺の分岐附近にネンショウ橋が架っており、ネンショウは何の意味かと調べたが、念誦としか解せられず、此の辺は昔から亀岡の穴太寺から善峰寺や三鈷寺・金蔵寺等の仏閣への通路となっていたので心にお経を誦へて通ったのが銘名の因となっているのではなかろうかと思う。

又今迄調べた植生に就て精しく場所は云えないが、ワサビを始め、アヅマ一華・一輪草・二輪草・雪笹・羅生門カヅラ・山芍薬・二葉葵・エビネ・春蘭・ボケ等があり、柳谷・奥海印寺の谷奥に

は暖地性の楊梅の大木あり、水系は芥川の上流出灰川が北面の水を集め、東面は善峰川が、南東面は水無川が川久保・大沢を流れる。

オネンショウ越の道を今年になって久しぶりに歩いたが、入口が藪であったのが最近刈られて美しくなり荒地が畑となっており、道は南春日町ー坂本ー逢坂峠と東海自然歩道の三叉路を北へ芥川（出灰川）の源流沿いの車道を外畑へ約1.3Km程行くと、小塩山の方からサカ谷（可成り水量があり谷奥へ道あり）が車道を横切り合流する地点に無人小屋が一棟（昔の養鶏所跡）が建っている地点に出る。此所が分岐点で車道から左へ川を渡り山端の杉林の山道を行くと尾根の先端を小峠で越えて下ると出灰の最奥の田が現われ、農小屋がある。橋を渡って川沿いに下ると次の丸太橋の対岸がカマ谷の出合であり、その下流の毀れた危い橋を渡った対岸の小谷がオネンショウ越えの道で、杉林の山腹を登って峠を越すと昔の植林が杉林となって展望はなくなったが、昔は展望がよく北に愛宕や中畑の田園が見られた。出灰側へ下りになると茨が道を敵いでいるのでナタで切開いて通ったが、下に車道が見える所から先は特にひどく、杉林を電柱沿いに下り車道へ下った。橋を渡って最初の左に見えるのが大山谷で橋がなかった。

新緑の北山に
アマゴと山菜を求めて

山口雅直

4月上旬、学生時代の山の仲間と飲む機会があった。その際、渓流釣りの好きなT君、府の児童相談職員で子供相手のキャンプのベテラン（？）のY君夫婦と、イワナやアマゴを肴に飲もうという話が出て、連休の芦生でのキャンプの計画が出来上がった。当初、須後から櫃倉谷への予定であったが、取立てて入る程の谷でもないとの話を耳にしたので、目的地を野田畑付近に変更した。

折しも、日程、山域等が1535回例会と重なった事は残念であったが、久し振りの旧友との山行に心は弾んだ。

5月4日午前7時、天気は快晴、前日から入山している3人を追いかけんと、山科の自宅より車に乗り込む。さて、我が愛車ギャランZ、お年寄りの為、来月初めにはスクラップになる予定。手離す事が決まると妙に愛着が湧いてきて、〝今日はええドライブをしような〟と呼びかける。琵琶湖側より途中に入り、梅ノ木、久多川合町から古屋を経て、地蔵峠の車止めの所に8時半に到着する。久々に同乗者に気を使う事のないドライブを楽しんだ。

荷作りし直した後、峠を9時出発。前もって頼んでおいた道しるべに従い、30分程で野田畑谷出合付近の河原のテント地に到着する。既に先行者達は朝食を済ませ釣りに出かけたらしい。仕方なくせせらぎの緑に腰をおろし、ビールを飲み干せば、気分はもう Sun Shine on my shoulder makes me happy！ ー自然と鼻唱が飛び出す。

アマゴやイワナのみやげを楽しみにしながら、ナタで薪をこしらえたりすること1時間、前述の

3人が帰ってきたが、ぼうずとの事にがっくり。

午後は上谷と下谷の出合付近へ出向き、タラノキの芽や、イタドリ、ウドを採集する。2時間程でその晩の食卓を飾るのに適量を得る事が出来た。あゝだこうだと言いながら、サラダやおひたしにして食べる。家庭とは又ひと味違ったキャンプ地での食卓は、まさに山の春の香りで一杯である。夜が更けるにつれて酒もビールからウイスキーに変わり、程良く酔いが回りシュラフにもぐり込んだ。5月5日、明け方から風が出てきて雲量も徐々に増し、長く続いた好天の終りを感じる。朝食後、アマゴ釣りに執念を燃やすT君を残し、私とY君夫婦は野田畑峠から三国峠をめざす。思っていたより踏み跡が明確でなかった為、流れに沿って逆か登り野田畑峠に着くのだが、クマザサ等におおわれ展望もきかず、がっかりする。三国峠への府県境稜線は相当にブッシュがきつい為予定を変えて、来る途中に見つけたワサビの採集にきりかえる。生れて初めての天然ワサビに心は踊る。直径1～2cm、長さ10cm程のものを少々失敬し、テント地へ戻るとT君の方も数匹のアマゴが釣れており、昼食にその美味たるものを堪能させてもらう。昼食後、火の後始末、ゴミの収集に気を配りながら、午後3時撤営完了、演習林を後にした。

今回、植物の採集、たき火等、京大演習林での禁止行為を犯した事は少々心苦しいが、一泊のキャンプではあったものの、久々ののんびりとしたキャンプで心の洗濯が出来たようである。普段の山歩きでは見過しがちな自然の恵みに対し、改めて感謝するとともに、いつかは〝コッフェルとマッチと非常食のみ持参で、水、食料全て現地調達〟というような、素朴かつ野性的な山行も試みてみたいなどと、新鮮なワサビでそばを喰いながら、思いは頭をかけめぐるのであった。

例　会　報　告

例会No.	目的地	月日	天候	担当者	参加者	記事
1532	釈迦嶺	4月14日	曇	田中　忠久	上島　和彦	高倉峠から登る予定であったが勤務の都合で日帰りの日程しかとれなくなり、「福井県側からはまだ雪が深いだろう。道の谷の林道なら、うまく行けばウソ越まで利用出来るかも知れない」という予測から、走りなれた揖斐川沿いの道を行くことにした。ところが塚の集部を過ぎて、5分も行かないうちに車はストップしてしまった。ガケ崩れに林道がふさがれていたのである。そこからウソ越まで積雪の林道を3時間近くも歩かされるはめになった。山の中の3時間ならどうということもないのだが、林道の3時間は日頃のトレーニング不足もあって、いさゝかまいってしまった。（日頃トレーニングされている上島さんは平気なようであったが…）　そんなことで、ウソ越から小ピークに登ったところで昼食をゆっくりとり、雪の山を眺めたゞけで引返した。

	後日、「もう少し登りたかった」と云う思いにかられるのだが今となってはどうしようもない。上島さんにはたいへん申し訳けなく思っている。					
1533	太　神　山	4月14日	晴	山元　誠一	奥村、津田村、和田原田、横井	バス新免でおり谷沿いに歩き、少しヤブコギをして頂上には3時前であった。帰りは国道をスイスイと尻に帆かけてとんで帰りました。　別稿報告
1534	スキー登山（変更）白　山	（変更）4月28日～29日	晴	大槻　雅弘	大槻　貞従 関本　俊雄 三橋　勉	すばらしい天候で雪質もよくしまっていて快適に滑ってきた。　別稿報告
1535	京大演習林	5月　5日～6日	晴	鷲見　敏一	吉田F4、津田F1、大木、原田 竹田F1、井戸F3、鷲見夫人、三橋夫人	局8:30 車4台で総勢17名参加、安掛から須後までよい道で国体のロードレースの会場になるとのことで、11時ごろ須後に到着した。　次号報告

雑　　報

5月集会報告

出席者　OB　奥村、津田、坂井

本局　和田、鷲見、大木、三橋、大槻雅、方山　　高速　岡田

梅津　吉田　　九条　古市、大槻貞　　鳥丸　大倉　　以上14名

インドアとして「ザイルの結び方」を吉田担当から講習があり、例会報告及び個人山行報告（坂井、伊藤ー大杉谷の木地小屋の高（987m）とウグイノ谷の高）があった。

◎　夏山合宿について

今年は、八ケ岳にファミリー的な山行をする方針で、7月19日ごろ　つゆ明けを待って実施する。　（リーダー会で8月に変更した。）

◎　岳連主催　体力測定会（4月21日）　　100名程参加、

最高タイム　1時間49分（北桑田高校）　　2時間以内に5名（高校生3、成年1、オープン1）入賞

部員動静

〔入　部〕　本局　河野　勝　S11.2.6生（A型）　　中、西ノ京池ノ内町16

〔異　動〕　洛西へ　武田喜久郎（錦林）　　高野へ　今井勇一郎（鳥丸）

鳥丸へ　石田　弘（本局）

部費受領

ＯＢ　横井襄二．渡辺朋子

お知らせ

京都岳連主催、京都新聞共催でビワコバレイが運営しているチャレンジハイキングの今年度の日程がきまりました。これは岳連未加盟の人達を主として対象とするものですが、もちろんだれでも参加できます。くわしくは、ビワコバレイ（０７７５―９２―１１５５）まで問い合せて下さい。

なお、第１回　５月３日に京交代表として鷲見リーダーが参加され、７６人という多数の人達を案内されました。

記

回	予定日	予　定　コ　ー　ス
第１回	５月　３日（祝）	打見山頂～木戸峠～南北縦走～金糞峠～山上駅（ロープウエイ）
第２回	５月１２日（日）	打見山頂～汁谷～夫婦滝～汁谷～木戸峠～天狗杉（キタダカ谷）～木戸
第３回	６月　９日（日）	打見山頂～蓬萊山～小女郎峠（池）～ホッケ山～権現山～ズコノバン～栗原
第４回	７月　７日（日）	山上駅（ロープウエイ）～武奈ケ岳～ワサビ峠～ゴテンヤマコース～坊村
第５回	８月１８日（日）	打見山頂～汁谷（昼副食自炊）～木戸峠～天狗杉（キタダカ谷）～木戸
第６回	９月　８日（日）	山上駅（ロープウエイ）～金糞峠～中峠～ゴテンヤマコース～坊村
第７回	９月２２日（日） ２３日（祝）	中央アルプス（木曽駒ケ岳登山）
第８回	１０月１３日（日）	打見山頂～蓬萊山～小女郎峠（池）～ホッケ山～権現山～アラキ峠～平
第９回	１０月２７日（日）	打見山頂～汁谷～木戸峠～比良岳～烏谷山～荒川峠～大岩谷～志賀（駅）
第10回	１１月　４日（祝休）	打見山頂～汁谷～夫婦滝　坊村

コースは予定のため変更することがあります。

岳連だより

４月号でお知らせしました名誉指導員は、参与の誤りであり、近藤　薫氏の他に新らしく　坂井久光氏も就任されましたので報告いたします。

帆布・濾布
テント・シート
雨　合　羽

木村工業有限会社

京都市中京区ミブ車庫前
TEL 801－5331（代）

西大路営業所
下京区西大路七条下ル
TEL 321－0251

愛されるスポーツ店

京菱運動具店

本　店　下京区大宮通松原上ル
TEL（801）1331
十条店　南区竹田街道十条上ル東側
TEL（691）8041
伏見店　伏見区伯耆町西友ストアー4F
TEL（623）0824
山科店　山科区音羽野田町1番
西友ストアー山科店
TEL（592）9770内線228

一年中、山用品だけの
プロショップ

営業時間
午前10時～午後1時と午後3時～午後8時
（午後1時～3時は閉店させて頂きます）
<定休日>　火・水曜日

山・アウトドア　プロショップ

LOG CABIN

ログケビン 長谷川　博

京都市中京区御幸町通
蛸薬師南入
（四条河原町・阪急河
原町より徒歩約4分）
TEL 221－7569

昭和60年 6月 1日

京都市中京区壬生坊城町48

京都市交通局内

京交山岳部

お知らせ

今度、当チロル店舗は近代ビル改築計画に伴い、一時立退きと相成りました。
改築期間中（約1年間）は、本店2階にチロルコーナーとして継続営業いたします。

チロル

移転先　本店2階
京都市中京区西ノ京円町24

ダイヤ運動用品株式会社

HORIKE KYOTO　まかせて下さい…ネ
山とスキー
のことなら…

☆在庫豊富にとり揃えています
☆山の道具は　ゼヒ　御相談下さい

山とスキー専門店
ビッグ ホリイケ

河原町店　上・河原町通丸太町東入
TEL　222－0363

御婚礼
御引越
ぎおん菊水　専門

ぎおん菊水運送株式会社

山科配車センター
京都市山科区西野山階町12－12
TEL(075)581－3101
本　社
東山区大和大路通四条下ル　541－2345
鴨川営業所
中京区室町二条上ル　256－3059

結婚引出物・内祝・開店記念品・粗品
仏事用お返し品・お中元・お歳暮用品

贈答品総合センター
厚生会指定
サンコークラフト
西島輝雄

左．川端通丸太町下る下堤町88
TEL(075)771－3442

山とスキーの店
京都 あるむ

京都市中京区新町三条上ル
075－255－0288

HIKE & CAMP
この用具の事ならコニシが一番だ！
御来店ありがとうございます
山とスキー　レジャー　スポーツ　ショップ
そして海の　コニシ
中・二条通河原町西　TEL　231－1202